

# 授業科目の概要

2025年度実施内容。2026年度には一部変更の可能性があります。

ハイブリッド型授業の実施

ハイブリッド型授業 マークの授業は、対面・遠隔を併用したハイブリッド型で授業を実施しています。その他の授業は、原則、対面のみで実施しますが、場合によって遠隔で実施することもあります。

## ▶ 臨床心理学基礎科目

### 臨床心理学特論 A 担当: 杉本 希映

本講義では、臨床心理学を学ぶ上で前提となる知識や視点、態度を身につけることを目的とする。特に、DSM-5に基づく診断の領域ごとに、疫学やリスク因子、援助のあり方などについて最新のエビデンスをレビューし、心理職としてどのようなサービスが提供できるかについて議論する。

### 臨床心理学特論 B 担当: 阪無 勇士

臨床心理士・公認心理師の実務で求められる基本的な知識と技法ならびに関連分野(保健・医療・福祉・教育・司法・犯罪・産業・労働など)における専門的な知識と技法を幅広く学び、心理職としての準備性を高める。

### 臨床心理学面接特論 A

(心理支援に関する理論と実践)

担当: 浅見 祐香

臨床心理学的面接や心理療法を行うための事前準備として、力動的理論、認知・行動理論を中心とした心理面接の各理論への理解を深め、事例紹介などを通してインターク面接で把握すべき情報や見立ての立て方を学ぶ。

### 臨床心理学面接特論 B 担当: 高橋 稔

同科目 A の内容をふまながら、より実践的に活用できるような形で心理面接を進めていくことを目指す。特に、相談に来られたクライエントの疾患や生活実態などに焦点を当て、どう主訴を整理しながら聞き取り、クライエントと関係を築きながら支援に繋がれるかまでを目標とする。

### 臨床心理学査定演習 A

(心理的アセスメントに関する理論と実践)

担当: 諏訪 純里子

心理アセスメントの理論と実践を学ぶ。特にウェクスター式知能検査についての理解を深め、実施と解釈、所見作成までのスキルを身につける。演習を通して、目的に合わせてアセスメント方法を選択し、実施し、結果を支援に生かすことができるようになることを目指す。

### 臨床心理学査定演習 B 担当: 井上 敦子

主として医療現場で用いられることが多い検査を網羅的に学ぶ。質問紙法、面接法、認知機能検査、発達検査などの実施方法と背景理論を学び、検査の実施だけでなく、適切な査定に基づく検査の選択能力、フィードバック能力といった総合的な査定能力を身につけることを目指す。

## ▶ 臨床心理学専門科目

### 臨床心理学研究法特論 担当: 水野 泰尚

臨床心理学における研究の科学的方法論について、リサーチクエスチョンの立て方、研究デザイン、データ収集や解析の方法を学習し、修士論文における研究計画についての理解を深める。

### 臨床心理学統計法特論 担当: 土屋 正雄

研究計画に基づき、調査の実施、データ解析、結果の記述の仕方など、一連の流れを学習し、修士論文で用いる心理統計の技法に関する理解を深める。

### 人格心理学特論 担当: 橋本 墾

演習を通してパーソナリティのアセスメントスキルの習得を目指すとともに、パーソナリティに関する近年の研究動向や、パーソナリティに関連する病理に対する心理臨床技法の実際について学びを深める。

### 司法矯正・犯罪心理学特論

(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

担当: 浅見 祐香

犯罪をした者や被害者に対する心理学的支援について、その理論や実践を学ぶとともに、背景にある社会的な問題についての理解を深めることを通して、心理職として何ができるかを考える。

## 家族カウンセリング特論

(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

担当: 阪無 勇士

個人の責任と思われるような問題の背景に目を向けると、関連要因として「家族」があり、家族を取り巻く「地域社会」、「集団・組織」の影響が見え隠れする。家族支援に関する心理学的支援の基礎を学び、心理臨床家としての準備性を高める。

### 臨床心理法規・倫理特論 担当: 金沢 吉展

臨床心理学の実践や研究などを行う上で注意すべき倫理的・法的側面について、要点を概観することで、臨床心理学の理論や技法をどのような社会的枠組みの中で用いるべきかを考え、社会的信頼を得る方法などを学ぶ。

### 医療心理学特論

(保健医療分野に関する理論と支援の展開)

担当: 日高 韶子

がんなどの身体疾患についての知識を深め、各病期やライフステージなど多角的な視点から患者・家族の心理過程やそこに生じる問題について理解を深め、チーム医療における心理的援助方法の理論と支援の在り方を検討する。

### 発達障害臨床心理特論

(福祉分野に関する理論と支援の展開)

担当: 諏訪 純里子

発達障害およびそれに関連する法律や福祉制度、合理的配慮についての理解を深めるとともに、発達障害への支援、共生社会のあり方について学んでいく。心理職として具体的な支援方法を柔軟に考えることができるようになることを目指す。

### 学校臨床心理学特論

(教育分野に関する理論と支援の展開)

担当: 黒沢 幸子

学校教育分野の理論と支援について、スクールカウンセラーなどの心理職の実践に求められる内容を、学校の機能と役割の変化、不登校、いじめ、暴力行為、学級崩壊、児童虐待、神経発達症、教員のメンタルヘルスなど、多様な角度から扱い、解決に役立つ方略を演習を通して学ぶ。

### 心理教育特論

(心の健康教育に関する理論と実践)

担当: 平松 洋一

心の健康に関する知識の普及を図るために教育および情報の提供ができるることを目的とする。心の健康教育を支える理論、内容、方法を学び、具体的な心理教育の演習を通して実践力を身につける。

### 認知行動療法特論 担当: 大川 翔

臨床現場で遭遇するさまざまな心理的問題に対して、認知行動論ではどのような見立てを行い、どのように援助を進めていくのかについて学ぶ。また、演習を通じて、具体的な技法の理解と修得を目指す。

### 臨床心理コミュニケーション特論 担当: 小栗 貴弘

コミュニケーション心理学の発想・基本的価値観およびそれらに基づいた技法を、心理臨床の実践においてどのように生かして展開するかを理解する。

## ▶ 臨床心理実習科目

### 臨床心理基礎実習 A

心理支援に必要な基礎的技術について調べ、これに基づきロールプレイ、インターク面接報告に基づきクライエント理解とニーズ把握、支援計画に関する演習を行う。

### 臨床心理基礎実習 B (心理実践実習 1)

学内の心理カウンセリングセンターにおいて、心理に関する支援を要するものなどを対象とした心理的支援などについて実習する。この実習では、クライエントの相談を担当したり、心理検査を実施したり、心理面接の継続的な陪席をすることになる。

## 臨床心理実習 I (心理実践実習 2)

学内の心理カウンセリングセンターにおいて、心理に関する支援を要するものなどを対象とした心理的支援などについて実習する。さらには、ケースカンファレンス、および事例論文の執筆およびその指導を含む。

### 臨床心理実習 II (SV) ハイブリッド型授業

学内の心理カウンセリングセンターで実習したケース(心理面接や心理検査、陪席した面接など)について、専門的な視点から継続的にスーパーヴァイズを受ける。

### 臨床心理実習 III (心理実践実習 3)

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪・産業・労働の5分野の中から1領域において、心理に関する支援を要するものなどを対象とした心理的支援などについて学外の実習施設へ赴き実習を行う。

## ▶ 研究指導

### 臨床心理学特別研究

各受講生の課題内容に適した複数の教員が、個別ないし小集団形式で指導する。担当教員が近時の研究を紹介し、受講生は自己の研究テーマに関するレポートを提出し、検討することを通じて修士論文の執筆指導を行う。

## カリキュラム (修了要件: 40 単位以上)

科目名	公認心理師	臨床心理士	開放科目	単位数	配当年次
必修	選択				
臨床心理学特論 A	★		2	1	
臨床心理学特論 B	★		2	2	
臨床心理面接特論 A (心理支援に関する理論と実践)	◆7	★	2	1	
臨床心理面接特論 B	★		2	1	
臨床心理査定演習 A (心理的アセスメントに関する理論と実践)	◆6	★	2	1	
臨床心理査定演習 B	★		2	1	
臨床心理学研究法特論	★A		2	1	
臨床心理学統計法特論	★A		2	1	
人格心理学特論	★B	○	2	1・2	
司法矯正・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	◆4	★C	○	2	1・2
家族カウンセリング特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	◆8	★C	○	2	1・2
臨床心理法規・倫理特論	★C	○	2	1・2	
医療心理学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	◆1	★D	○	2	1・2
発達障害臨床心理特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	◆2	★D	○	2	1・2
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	◆3	○	2	1・2	
心理教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	◆9	○	2	1・2	
認知行動療法特論	★E		2	1・2	
臨床心理コミュニケーション特論	★E		2	1・2	
臨床心理基礎実習 A	★		2	1	
臨床心理基礎実習 B (心理実践実習 1)	◆10		2	1	
臨床心理実習 I (心理実践実習 2)	◆10	★	3	2	
臨床心理実習 II (SV)	★		1	2	
臨床心理実習 III (心理実践実習 3)	◆10	★	6	1・2	
臨床心理学特別研究				4	2

注1) 開放科目とは、臨床心理学専攻のカリキュラムとして開講し、現代心理学専攻の希望者が履修可能な科目。

注2) ◆は、公認心理師法第7条第1号および第2号に規定する「心理学その他の公認心理師となるために必要な科目(以下、必要な科目)」である。

なお、現代心理学専攻の「精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)◆1」、「発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)◆2」、「犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)◆3」、「産業カウンセリング特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)◆4」、「産業カウンセリング特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)◆5」、「産業組織心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)◆6」も指定科目として認められる。

注3) ★は、臨床心理士受験資格取得のための指定科目。A~Eはその領域の区分を示す。

なお、現代心理学専攻の「心理学研究法特論★A」、「発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)★B」、「社会心理学特論★C」、「家庭心理学特論★C」、「犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)★D」、「精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)★D」、「言語発達特論★D」も指定科目として認められる。

## [公認心理師試験の受験資格について]

公認心理師試験の受験を考えている方は、以下の点に十分にご注意ください。

- 公認心理師試験の受験資格を得るために、公認心理師法に定められた「公認心理師となるために必要な科目」を、大学において履修していることが必要になります。

- 自大学以外の大学を卒業し(卒業見込みを含む)、本大学院を受験される場合には、科目の履修要件について出身校の担当部署に十分に確認してください。必要な科目を履修していない場合、公認心理師試験の受験資格は得られません。